

2019年9月 ことばのテーブル学習会

キーワードから考えることばの学習(22)

漢字について考える I



言語・学習指導室
葛西ことばのテーブル
三好純太



今回のキーワード

やさしい漢字

骨格としての音訓

漢字ネットワーク

象徴文字

今回のお話の流れ図

最近の漢字事情 やさしい漢字

手書き文字と活字の比較 → 漢字という現象

漢字の基礎知識 骨格としての音訓

* 漢字の仕組みを誰もが無意識に知っていることの重要性

漢字ネットワーク

覚えられない漢字の分析 → 漢字ネットワークの必要性

基礎漢字の習得 → ネットワーク形成へ

* 自分にとっての漢字 **象徴文字** * 療育の中で漢字の持つ役割

1つの漢字の持つ情報

たとえば一太郎というワープロソフトで



という字を
変換する際に
右のような
単漢字情報が
表示される

文字	: 国
異体字	: 國 國 → 旧字体
音読み	: コク
訓読み	: くに
部首読み	: くにがまえ → 口
文字画数	: 8
常用漢字	: 該当する
表外漢字字体表	: 該当しない
人名用漢字	: 該当しない
漢字配当	: 2年 → 小学2年履修
JIS	: 3971 → JISコード番号
漢字水準	: 第1水準
シフトJIS	: 8D91
区点	: 02581
面区点	: 1-25-81
Unicode	: U+56FD → ユニコード番号
UTF-8	: E5 9B BD

やさしい漢字

昨今の漢字事情

漢字を取り巻く環境が
最近、急速に変わりつつある

そして当然、その変化は・・・

子どもの漢字学習や
大人の漢字能力に
大きな影響を与えつつある

漢字の変化は大きく二つに分けられる

● 手書き文字の減少

● 漢字自体やその運用の簡略化

● 手書き文字の減少

漢字は手で書かなくなっている

日本語ワープロの進歩・普及により

漢字を手書きする機会は、
急速に減りつつある



変換機能により漢字を活字で記せる

最近では推測変換や校正機能で、
漢字選びや訂正まで機械がしてくれる

でも日本語ワープロ出現以前は・・・
私たちが辞書も見ず、手書きできる漢字は
限られたものに過ぎなかった
また自分が書いたものが「活字」になることも
極めて稀だった
私たちは一般に、読書はできても
本を一冊記すようなことは困難だった

しかし今・・・人々はこぞってSNSやブログで
さまざまな漢字を駆使して文を記している
それを可能にした日本語ワープロは
日本人の言語生活を激変させた
読めても書けなかった(辞書を見てさえ)
「薔薇」や「躑躅」を一瞬で記せるようになり
書字伝達という行為においては、
漢字の使用は劇的に易しくなった

日本語ワープロについて

1978年

東芝が初の日本語ワープロを発売

その開発については、

森健一著『日本語ワープロの誕生』に詳しいが
さまざまな難問を乗り越えての完成だった
とくに開発者たちの頭を悩ませたのが
同音異義語の問題

交渉・校章・高尚・考証・公称・厚相・口承etc.
をどうするか？

ワープロは世界共通の革新だったが
漢字変換機能のある日本語ワープロは

それを使う人への言語的援助
という点で絶大な力を持っていた

アルファベットを始め、世界中の多くの
言語は音をあらわす表音文字が中心

だから、活字という点では古くから
タイプライターが開発されていた

アルファベット言語のワープロ入力

たとえば、アップル●と表示したい場合

a-p-p-l-e と入力するが

abcを1文字ずつ選んで行く作業は、
ひらがなで、**り・ん・ご**と表すのと同じで
手で書かかキーを押すか、の違いに過ぎず

※アルファベット自体の書字や、推測機能による
スペル選択などの援助はあるものの

体外知性としてのメリットは少ない

一方、日本語ワープロは

膨大な**漢字処理**という点で

体外知性として絶大なメリットがあった

結果的にワープロは

日本人の文字使用の意識を変え

また **社会への発信者・表現者**

としての自分を見出すことになった

また強力な能力援助ツールであるゆえに

ワープロは人間本来の言語能力に
大きな影響を与えつつあり

それには、**能力の向上と低下**、
両方の要素がある

漢字能力については

×漢字が手で書けなくなる

○漢字が読めるようになる

などが言われているが、まだ結論はない

●漢字自体やその運用の簡略化

漢字は簡略化の歴史をたどっている

たとえば以前は、学校で

漢字を書く際に、**はらい・止め・はね**
などを、かなり厳しく教えていたが

最近では、字形に対する細かい指導は
減少しつつある

※字形＝具体的に出現した個々の文字の形状

しかし、そのような漢字の簡略化

さらには、漢字使用減少の流れは

世界の漢字文化圏の歴史の中で
ずっと続いてきているもの

- ・中国：漢字廃止が国是/漢字の簡略化
- ・ベトナム：漢字廃止
- ・韓国：漢字使用減少

そして日本においても

幕末・明治時代以降、**国家政策として**

漢字の簡略化・平易化を行ってきた

●近現代の日本の漢字政策

明治新政府発足 ○国語改良運動

*漢字廃止・制限論

第2次世界大戦後 *再び漢字廃止・制限論

*昭和21年 当用漢字制定(1850字)

公文書・教科書・新聞等での**使用制限**

⇒学習の負担軽減

*昭和56年 常用漢字制定(1945字)

分かりやすく通じやすい文章を

書き表すための漢字**使用の目安**

また、パソコンなどで使われる漢字活字
については

* 昭和53年 JIS漢字コード(6355字)制定
第1水準～第4水準に分類

JIS漢字コードとは

コンピュータで漢字を扱う場合の統一規格

漢字の活字統一により、どのパソコンでも
同じ字が表示されるようになり便利になった

漢字の字体の簡略化

* 昭和21年の当用漢字制定と同時に
旧字体を廃止し新字体に統一

※字体=文字の骨組み

國 ⇒ 国 廣 ⇒ 広

覚えやすく、書きやすい字体へ

漢字の社会全体への普及と
運用の効率化を計る

また、漢字の字形については
2016年に文化庁国語審議会より

「常用漢字の字体・字形に関する指針」

これは が出された

手書き文字と印刷文字の
字形について説明するもの

* 活字による漢字運用の増大に伴い
活字と手書き文字との関係に
さまざまな疑問や見解の相違が
生じてきているため

例えば・・

? 活字のように手書き文字も書かなければ
いけないのか 令 or 令 ?

? 活字のように「はね」や「はらい」がない
字を、テストで正答にしてよいのか
これらの問題に対して指針では

活字と手書き、どちらか一方を正しいとみな
したり、漢字の字形の細かい違いで
正誤を決めないように との考えを示している

漢字は本来、多様なもの

また、手書き文字については
「漢字を手書きすることの重要性」として

手書き文字の読み書きが
漢字の習得力を高める

ことを、つぎの2点から述べている

- 漢字の字体認識能力
- 手書きの運動感覚

● 漢字の字体認識能力

ひとつの漢字を覚えるために
その字を何度も手書きすると
書くたびに違った形の字になる

形の差を繰り返し経験

その字の本質(骨組み)が認識される
対して活字は、すべて同一の形

活字ばかりに触れていると
手書き文字が読めなくなる可能性

ではなぜ、私たちは、形の千差万別な
手書き漢字を同じ字として共有できるのか

私たちは漢字を、ひとつのまとまりとして
直感的・無意識に、捉えているため

だから、ある文字を
意識的に見つめ続けたり、緊張していたり
また字が大きすぎたり、偏や旁がばらけたり
している

その字が、その字のように
見えなくなってくる → **ゲシュタルト
崩壊現象**


近

夏目漱石
「門」より

ゲシュタルトとは、**まとまりの認識**

白い壺とみるか  向き合う人影とみるか

私たちは、さまざまな形の手書き文字に
触れながら、その構造を抽出し

 → **海** 文字のまとまりを作っていく

しかし、まとまり認識を成り立たせているのは
文字の「見え」だけではない

● 手書きの運動感覚について

手書きは、視覚・触覚・運動感覚など
複数の感覚を伴う身体活動



漢字は単に視覚的な記号ではない

私たちは、手で書くことを通して
漢字を「方向や順序のある動的存在」
として認識し、身につけて行く

山 

こう書いて、こう行って…

運動感覚が文字認識に重要であることは

脳損傷で生じる「**純粹失読**」という 
言語障害の症状にもよく現れている

文字を見ても読めなくなってしまった字が
それを指でなぞると、読める(わかる)

書字の運動感覚(記憶)が文字を想起させる


* 他人がなぞるのを見たり、視線で **漢字には
なぞるだけでも読めることもある 動きがある**

そして、漢字を動き(流れ)としてとらえる
この運動感覚も

漢字のゲシュタルト(まとまり)認識に
大きな役割を果たしている

漢字はもちろん具体的な形でもあるけれど

人間のさまざまな感覚や記憶の交叉点に
点っている「ランプ」のようなもの

私たちにとって手書きは 
その光りを点すための大切なプロセス

だから漢字の筆順や、「はね・はらい」は
漢字を身につけるために必要なものであり
また漢字を覚えやすくするもの

結果として書かれた文字の形には
寛容であることが望ましいが

学びの過程では

基本的な運筆を正しく教える・学ぶ
必要があると思われる

そして、一方、活字はというと

字の形はすべて同じ

「書く」という動作がない

指針では、活字にばかり触れるようになれば

漢字の字体・字形に対する理解も変化し、
漢字を複雑な図形のようなものとして
捉えるようになっていくおそれもある

述べている

そして近年、漢字は
時代の流れの中で、また別の
転換も迫られている

それは **やさしい日本語**

日本で暮らす、外国とつながる人は
年々増加の一途をたどっており
それらの人たちとの共生のために

日本語は変化を求められている

日本語を、外国の人にとって、
もっと分かりやすくして行こう

また・・

障害を持つ人とのコミュニケーションや
社会参加を拡げて行こう

漢字もまた **やさしい日本語** という流れの中で

よりシンプルな運用

を求める声が高まっている

外国語母語の人が日本で暮らす上で
もっとも難しく大変なのが漢字の習得

だから、漢字をもっと
外国の人に、易しい(優しい)もの
にして行く必要はある

では、やさしい漢字とは何だろうか

- 漢字を使いやすくすることだろうか
- 漢字を学びやすくすることだろうか
- それとも漢字を簡単にして行くことだろうか

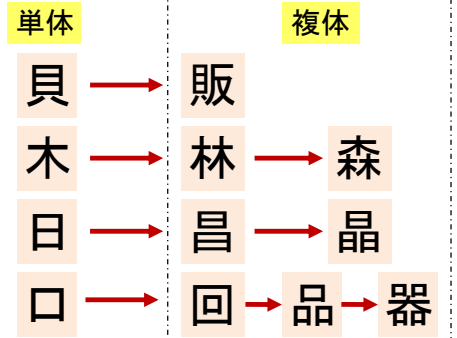
漢字の基礎知識

- 漢字の構成
- 成り立ちからみた漢字の種類
- 学校教育における漢字

● 漢字の構成



単体と複体



● 成り立ちからみた漢字の種類

漢字は、その成立過程から
6つの種類に分類される

- 象形
- 指事
- 会意
- 形声
- 仮借
- 転注

象形 * 物の形を象ったもの

山 (山) 日 (日) 雨 (雨) 木 (木)

指事 * 抽象概念を形で表したもの

上 (上) 下 (下) 末 (末) 本 (本)

会意 * 意味と意味を合わせたもの

明 (明) → 日 (日) + 月 (月) あかるい

畑 (畑) → 火 (火) + 田 (田) はたけ

※ 国字は会意文字がほとんど

国字 = 日本で作られた漢字

峠 (峠) 鯖 (鯖) 畳 (畳)

形声 * 意味と音を合わせたもの

涙 (涙) → 氵 (氵) + 戾 (戾) rei

水の意味 音

漢字の約7割が形声文字

「桜」と「梅」

桜 (桜) yīng → 音 嬰

古代中国の人

梅 (梅) mèi → 音 每

そして 元々のことばの音に 樹木を表す「木」をつけ 桜・梅 とした

阿辻哲次著「漢字の話」より

● 学校教育としての漢字

現在、義務教育過程で
常用漢字のすべてを学習する

小学校	1026字	} 2136字
中学校	1110字	

※2020年度より

* 常用漢字が習得されていれば日常的な読み書きに大きな支障はないとされている

小学校における漢字教育

履修漢字数(※2020年度より)

1年生	80字
2年生	160字
3年生	200字
4年生	202字
5年生	193字
6年生	191字

学習指導要領での
漢字読み書きの
習得目標

読み: その学年の履修漢字が
読めるように

書き: 前学年の履修漢字が
書けるように

骨格としての音訓

漢字の音訓

ほとんどの漢字には音読みと訓読みがある

国	音読み → こく
	訓読み → くに

* 音読みとは 中国語の音

* 訓読みとは 和語＝日本のことば

日本人にとって

ことばの意味は訓で表されるもの

音訓は漢字の基本構造になっている

しかし

音訓は漢字1文字だけではなく
漢語すべての骨格になっている

* 漢語とは 漢字の音で作られる単語

大事・料理・政治・文化・科学・郵便・心理
和製漢語

日本語のことばの半分は漢語 その多くは
和製漢語

日本語を使うには漢語習得が不可欠

漢語の音訓

単体	複体	単語	
げん	どく	おん・どく	おんどく・きょういく
言	言	音読	音読教育
いう	よむ	おと・よむ	おと・よむ・おしえる・そだてる

漢字がつながり、長い単語になっても

音訓は、つねにことばの骨格となっている

そして私たちは
この漢語の持つ構造を
多くの漢語に触れる中で
関係性を見抜き
共通する骨格として
漢語の音訓を理解する

音
漢語
訓

関係の投射
第6回「生活の中のことばの学習」

関係性の認知発達が漢字の習得においても不可欠

音訓の骨格の洞察とは
未知の漢語の音と意味の推測

<p>音の推測 その漢語の読みを 音読みで推測する</p> <p>「そく・どく」かな？</p> <p>※例外もあるが 重箱読み：団子・本屋 湯桶読み：場所・見本</p>	<p>意味の推測 その漢語の意味を 訓で考える</p> <p>「はやく・よむ」こと？</p> <p>※訓で解らないこともあるが 遠足「遠い足？」</p>
--	--

速読

私たちは、新しい漢語に触れたとき
この音訓の骨格を見抜いて
意味と読みを推測し

無意識にその漢語を身につけている

そして
それは 日本語を身につけている ことに
なぜなら 日本語の半分は漢語 他ならない

↓
漢語の骨格としての音訓に気づこう

漢字ネットワーク

私たちは音訓の骨格を知り
漢語や漢字をいつか
身につけていくのだが
一方で、なかなか覚えられない
漢字や漢語もある
今度は
「覚えられない」という方向から
自分の場合を例として
漢字や漢語について考えてみたい

ということで 挨拶
という漢字を題材にしてみたい

自分は 挨拶 という身近なことばが
漢字で書けない

何度か、書けるように練習もしたが
いまだに書けない 読むことはできる

そこで…

「挨拶」がなぜ書けないか

を、自己分析してみた

その結果、挨拶が書けない理由は

主に**4点**あるのではないかと考えられた

1 使用頻度の問題

「挨拶」という漢字を
使う機会が少ない

難しい漢字でも、使用頻度の高い
漢字は書くことができる
たとえば

「誤嚥」や「咽喉」などは難しい字だが
仕事柄よく使うので、書ける

2 音の問題

「挨拶」という漢字は
音の手がかりがない

たとえば、「銘肝」は、
その単語を知らなくても

銘はメイ(名)、肝はカン(干)→メイカン
のように

漢字の**旁(つくり)**に、音の手がかりがあり

読みを推測することができる

しかし、「挨拶」は…

挨 どこにも「アイ」の音を

拶 どこにも「サツ」の音を
連想させる部分がない

だから、読みの見当がつかない

* 文脈の中で「挨拶」と出てくれば読めるが
「挨」、「拶」、一文字では多分読めない

3 形の問題

「挨拶」という漢字は
形が見慣れない

挨 似た字としては「埃」(ほこり)が
あるが他は浮ばない

拶 ≪≪ は曲がりかわ、と呼ばれる部首で
「巡」があるが他は浮ばない

また ≪≪ は、自分にとっては「臼」などとともに
日本語の漢字っぽくない印象がある

4 意味の問題

「挨拶」という漢字は
意味の手がかりがない

たとえば、「柁」は、「木」から樹木だろう

「悞」は、「思」があるから心情と
関係があるのでは？

のように、漢字の一部分から
その意味を推測できる場合があるが

しかし、「挨拶」は..

挨も **拶**も

漢字の中に意味を
推測させる部分がまったくない

じつは、挨も拶も、**訓読みはない**


和語ではなく、
音だけで用いられる漢字

建 音読み【ケン】
訓読み【たてる】
↓
イメージが湧かない

そして「挨拶」に戻ると..

じつは「挨拶」は、中国の禪で使われる
「一挨一拶」に由来する

「挨」も「拶」も、「押す」という意味で

「挨拶」は、大勢の人が前に出ようと
押し合うことを言う、とのこと
 だからキがついている

そこから礼儀としてのことばになった

禪の知識も経験もない自分には、
何のイメージも持てないのも当然だった

そして..

自分にとっての「挨拶」問題は
対象となる漢字のレベルを変えれば

漢字が苦手な子どもの
漢字習得や学習にも当てはまる
と思われる

なぜ自分が「挨拶」がダメかを考えること

漢字を身につけるヒントになるのでは？

ということで、

自分にとっての「挨拶」の難しさを
もう一度まとめてみると

「挨拶」は、他の漢字やことばの意味との
繋がりが(手がかり)がまったくない
つまり

ネットワークができていない
ということができる

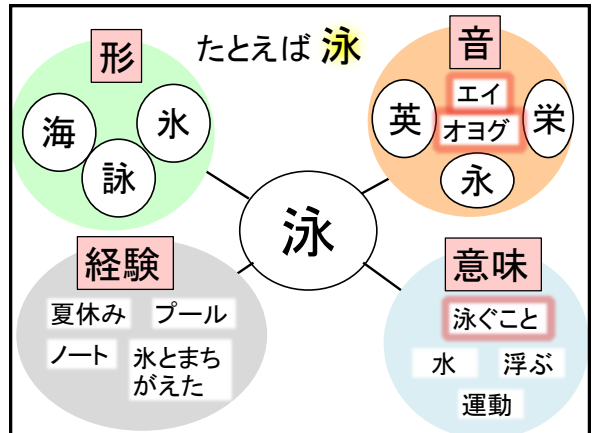
漢字ネットワークがない！

漢字ネットワーク

文字の形、音、意味、使用頻度、
自分の体験、印象 etc.

これら様々なものが、繋がり合った
漢字の網の目

私たちは、このネットワークを手がかりに、
漢字を覚えたり、思い出したり
しているのではないだろうか



そして私たちは、「泳」という字について
思い出そうとするとき

このネットワークを活用する

えーと…これ、
何て読むんだっけ？

えーと…「スイエイ」の
「エイ」ってどんな字
だっけ？



泳がついてるから
水と関係があるな

エイって読む字は
どんなのあったっけ

プールのとき、書いて
あったような…

「およぐ」ってことだ
から…

つまり…

漢字を豊かにして行くためには

漢字のネットワーク作り

を進めて行かなければならない

ということで 子どもの中に

漢字のネットワークを作ろう！

しかしまず、漢字ネットワークのためには…

何としても、**基本漢字**は
覚えなければならない

基本漢字とは

主に小学校低学年
で学ぶ漢字

単体の
漢字

日 月 火 水
一 二 三 四

「日」に
「生まれる」
で星だよ

ことばのテーブル
言語訓練カード第3集



なぜ覚えなければならないかと言うと…

基本漢字が、その後続く
漢字ネットワーク作りの基盤

だから

となるから

基本漢字の習得や学習 と

漢字ネットワークの形成や学習

また、それぞれの難しさ・苦手さは

分けて考える必要がある

基本漢字 日 月 火 三 四 五 etc.
の習得については

ひらがなや数字の習得と同様に

線・音韻・意味理解などの基本的な
認知基盤があれば

繰り返し書く・読む反復練習

で、本来身につくはずのもの

👉 1 使用頻度の問題

でも、それで習得(学習)が進まない場合は

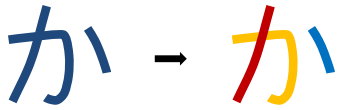
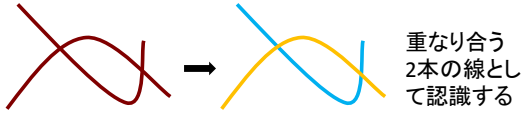
基本的な認知機能や
運動機能を評価して


学習困難の原因を検討する必要がある

* 検討する項目としては

- | | |
|----------|----------|
| ● 線の認識能力 | ● 語彙能力 |
| ● 描線能力 | ● 記憶能力 他 |

たとえば、線の認識能力では



線の連続が認識されていないと  のように捉えてしまう

☞ 第15回学習会「線を考える」より

また、描線能力では

ひし形が描けることが、ひらがなや基本漢字の書字の基盤



* 5才～6才で達成

また、語彙能力では

基本漢字の意味が解ること

基本漢字の意味(=訓)の理解がそのあとに続く、より高度な漢字単語の習得の基盤になる



※「土」を土曜日の「どう」、「生」を1年生の「せい」としか読めない子も多い

では、これらの基礎的な認知能力が未熟な場合は？

基礎的な練習(描線や線の認識、ことばの学習etc)を行いながら

平行して漢字学習を進める

文字学習が、基礎的な認知能力を育てて行くことを期待

基本漢字習得のための学習方法

～書字の学習を中心に～

なぜ書字が大切か

文字は書くことを通して体で覚えて行くものだから

ひらがなや漢字は、視覚記号だが身体の様々な感覚・認識とネットワークを持って成立している

☞ ● 手書きの運動感覚

視写(模写)

書字練習の基本となるもの

木

手本と視写用紙の距離を
徐々に離して、記憶保持を高める



手元 ⇒ 黒板



⇒ 裏面



先生の運筆を見ることも大切

- * 一筆ごとにまねる
- * 文字完成後にまねる

見本あわせの仕組みを使った漢字練習

あわせ(漢字)



- 文字の記憶保持を促す

なぞり書き

木

独習課題にしやすい

- * 筆順の指示が必要

かな文字習得の研究では
なぞりは効果的ではない
というデータもある

空書き

指で、空中や机の上に字を書く



運動(軌跡)記憶を
高める

- * 視覚情報の干渉を防ぐ
- * 文字の想起力を高める

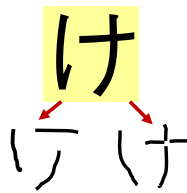
★ 筆記具の使用が未熟な子どもにも適用

- * 視覚情報の干渉を防ぐ

文字は見続けたり、意識しすぎると
ゲシュタルト崩壊を起こす

安定したまとまりが
崩れてバラバラに
認識される

私たちは漢字を、1つの
統一体として捉えている



- ☞ ● 漢字の字体認識能力

筆書

毛筆でなぞり、視写などを練習する



はらい・はね・止めの
意識化

文字の統合性・運動性の実感

鉛筆での練習に飽きている子どもには
筆書は新鮮、という効果もある

はらい・はね・止めの大切さ

漢字・かな文字の

「はらい」「はね」「止め」は **け** **丸**

筆から生み出された文字の特徴

「はらい」「はね」「止め」を身につけることで
漢字・かな文字の本質が直感され

それが漢字だけでなく
文字の習得を進めて行く

☞第15回学習会「線を考える」

たとえば「ん」という文字

ゴシック体では **ん** で

線の太さは均等だが

本来は筆書の **ん** で

線の太さは一様ではない

んを **ん** **ん** のように書く子がいるが

筆書の文字の特徴がつかめていない

また、ひらがな「の」は **つぎの字に続くために**
生まれた形

の
め
ば

なぜこの形なのか？

つぎの文字に
筆を続けて行くための、**はらい**

日本語は本来、縦書き

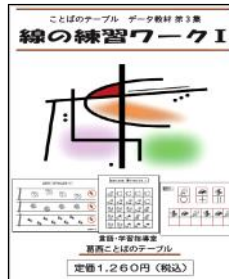
縦方向の右回転、もしくは
左回転の螺旋運動に
巻き線 支えられている

との
の

☞第15回学習会「線を考える」より

データ教材 第3集

線の練習ワーク I

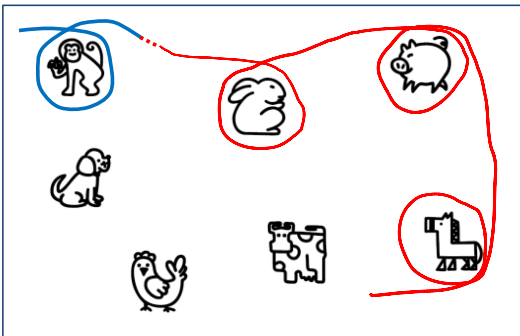


文字学習の基盤となる
線の認識と描出を
練習する教材

10種の描線課題
が収録

巻き線練習

■線でつかまえよう



止め練習

■ヨコ線・タテ線引き



まず、1本の滑らかな線が書けるように

ストローク

- ★きちんとした始点があり終点がある
- ★途切れず、滞らず、歪まず

止め・はね練習 ■✓を入れよう

✓をいれよう②

はらい練習 ■ノをつけよう

聴き書き

手本の文字を見せず、
音を聞いて、文字を書く

aka 赤

* 音と書字運動の結びつけ

視写が進まない子どもに適用

フレーズ練習

形態や運筆を、ことばに置き換える

たて たて たて → 川

よこ ノ 口 → 右

たす (+) かいて 口 → 古

形態実現が困難な子どもに適用

連想法

漢字を絵から想起させる

漢字の想起が困難な子どもに適用

そして、どんな方法でも使って

基本漢字を覚えることができたなら

↓

漢字ネットワーク作りに
進むことができる

漢字ネットワークとは

漢字と漢字 それから

漢語と漢語 の関係性

そして関係性のひとつが

漢字と漢語の音訓の骨格

でもネットワークを築くためには
他にもさまざまなものが必要

漢字ネットワーク形成のために
必要とされること

- 漢字の構成がわかる
- 漢字1文字の意味がわかる
- 漢字の音(おん)がわかる
- 漢字単語の語彙がある

● 漢字の構成がわかる

漢字を、
1つ1つ独立した図形として捉えると

膨大な記憶容量が必要になる

* 日常的に使用する漢字は約3000語

多くの漢字を習得するには
漢字を集合規則として
認識する必要がある

たとえば..

晴 は、 ^偏日 + ^旁青 というパーツ
の組み合わせ

楓 は、 木 + 風

|| ユニット

そしてこのパーツとなるものが

基本漢字

漢字はパーツのユニット(集合体)で
構成されている

そして漢字の習得・学習は

簡単なユニットから、 単体から複体へ
複雑な組み合わせのユニットへ

と進んで行くもの

口 → 只 → 員 → 鷗

線のユニット → 複数パーツのユニット

まずは..

ユニットの基本パーツである
基本漢字を覚えよう

「日」に「生まれる」で「星」だよ

そして、そのとき大切なのは
漢字の形だけではなく..

その漢字の意味をしっかりと学ぶ
こと

● 漢字1文字の意味がわかる

たとえば 鱈 という字が書いてあったとき
偏の「魚」の意味がわかれば
何かの魚ではないかと推測できる

また 進行 という語(字)があったとき
進=進む 行=行く 進んで行く、か… (🤔)

漢字1文字の意味がわかれば
その意味を何となく推測できる

漢字を学ぶとき

単語として丸暗記するのではなく

ひとつひとつの漢字の意味を
しっかり覚えよう

とくに漢字の中心的な意味(コア)が重要

生 生まれる・生きる (🌱)

それから

漢字の持つ意味を 考える習慣をつけよう なんでこの漢字を
使ってるんだろう?

ことばのテーブルで、子どもが書いたものを
読んでみると、当て字に出会うことが多い

食字をした 授業三観 同僚

自分の書いた字を見て、この漢字だとすると、
どんな意味になるんだろう、と考えてほしい

当て字をする子どもの多くは、漢字の意味を知らない
わけではなく、そこに意味を見ようとしていない

● 漢字の音(おん)がわかる

たとえば 張 という字があったとき

つくりの「長」の音(おん)がわかれば
「ちょう」と読めるのではと推測できる

つくりにあたる単体漢字は、基本漢字

基本漢字を音読みできることが
難しい漢字の読みを促す

漢字は、物の形から生まれた
象形文字とイメージされやすいが

形から表すものを推測できる漢字は
ほとんどない



漢字は意味と音の記号

漢字は意味と音 とは= 漢字の音訓

では漢字の音訓は、
どのような順で学ぶと良いだろう?

まず意味が分かる、ことの大切さ
を考えると 訓 → 音へ

力 ちから → 強力 つよいちから だ! (🤔)

強 つよい

でも・・・たとえば **協** は？

「**協**」の訓読みは「かなう」でとても難しい
では私たちは、どのようなプロセスで
「**協**」の字を覚えていこうだろうか
それはたぶん


「**協力**」ということばを
耳にするところからだろう

「**協**」習得のプロセス

1 まず話しことばを耳にする

 みんなで「**キョウリョク**」してね 

2 何度か耳にするたびに意味がわかる





 **なるほど**！ そして時を経て・・・

3 学習や読書の中で漢字を目にする

4 「**協力**」という漢語を通し
「**協=キョウ**」を覚える

 こういう
字か・・・

「**協力**」や「**完成**」や「**反省**」など
日常生活の身近な漢語は
私たちは、まず周りの人との
話しことばで出会う

 どう、**カンセイ**した？ 
 **ハンセイ**しなさい！ 

そして、そのあと漢語の漢字と出会う

だから**協・完・反**のような字は **音 → 訓**

だから話しことばの中で
漢語をたくさん覚えることが
漢字の音を育てることにつながる

保健 **ホ + ケン** **完全** **カン + ゼン**

では 漢語を覚える = 漢語の語彙がある

とは、どのようなことで
また、どうすればいいのだろうか？

● 漢字単語の語彙がある

漢語の多くは抽象的な概念を表すことば

調査 **健康** **原因** **統一**

漢語を覚えること


抽象的な概念を知り、理解する

抽象的な概念の理解が
高度な漢字習得には不可欠

しかしまた同時に

漢字が概念形成を援助する

.....わりと簡単そうな仕事だったので、僕はそれを、**気楽**に引き受けてしまった。.....

気楽 **気もちが楽なこと、かな？** 

状況や文脈だけではなく

漢字1文字の意味が

抽象的な概念の推測を促す

☞ 骨格としての音訓

漢字や漢語習得で
重要なのは

推測力

たとえば私たちは

文章を読みながら、**文脈や送りがな**で
読めない漢字を推測している

おみせで、ラーメンを**食**べた。と、書いて
やっ**と**夏休みの**工**作が**完**成した。あれば・

食は、「た(べた)」だろう。
完成は「かんせい」だろう、と推測する

でも漢字だけでなく
わたしたちは多くのものを

推測で身につけている

直接教えられて学べることは限られている
だから学習の目的は、ある意味では

推測力を身につけること

先を予測したり、物事の間接性を推し量る
能力と志向を育てることが大切

漢語の学習課題

漢語選択・補充課題

選択課題

夏休みの**工**作が、した。
雨で**運**動会がになった。
電車が、**駅**にした。
こわれた**テ**レビをした。

到着 完成 修理 中止

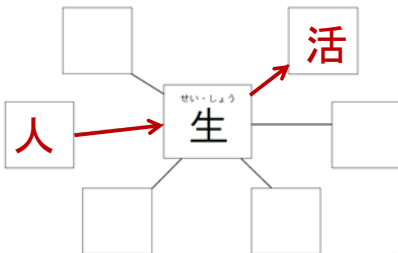
補充課題

夏休みの**工**作が、した。
雨で**運**動会がになった。
電車が、**駅**にした。
こわれた**テ**レビをした。

● 文の意味から漢語の選択・想起を促す

漢語作成課題

漢字のこぼれを作ろう **生** *生きること・生まれること



● 基本漢字を結びつく漢語の想起を促す

漢字・漢語で文作り課題

音 音がきこえる。

右 音 入 生

下のこぼれをつかって文を作ろう

意見を統一する。

疑問 展開 統一 臨時

● 文の意味を成り立たせる漢字・漢語の使用

漢語作成・漢語分解

漢字連結課題

例	音を楽しむ	て	音楽
①	強い力	て	強力
②	朝に食べる	て	朝食
③	海の水	て	海水

漢語分解課題

例	時計	は	時を計る
	海上	は	海の上
	引力	は	引力
	近所	は	近い所

- 漢語の意味に注目するための連結と分解
- 漢語の意味＝訓、読み方＝音への気づき

漢字訂正

まちがっている漢字を直そう① [月 日]

○はさみて 紙を 着る	○1時間目は 温泉だ
切	音
○海で 会を ひろった	○少学校の 先生
貝	小

- 当て字の訂正による意味への気づき

反対語・対義語課題

反対の単語 1

出発	失敗
成功	不潔
清潔	平日
安心	到着
休日	不安

- 反対語・対義語をテーマとした漢語の学習

共通する漢字や対となる漢字を手がかりとする

安心⇔不安

出発⇔到着

接頭辞課題

どんな漢字がくっつくかな？

新	注意
再	使用
不	発売
未	関心
無	放送

- 接頭辞の理解による漢語の拡大

新＝新しい・新しく

新発売・新商品・新米

不＝～がない・～しない

不注意・不自由・不満

接頭辞の理解・運用は語彙拡大に不可欠

語義推測課題

- 線を引いたことばの意味を、下の三つの中から、えらんでください。

- ◇ むずかしい計算には、電卓が**必要**だ。
①たいせつなこと ②店で買うこと ③**かならず、いること**
- ◇ 牧場の**周囲**には、木の柵がたてられていた。
①一週間のこと ②**まわりのこと** ③気をつけること
- ◇ 交通安全のポスターを、全国から**募集**する。
①**広く、集めること** ②お金をあげること ③たくさん集まること

- 文の意味と漢字からの語義の推測

漢字学習のまとめ

基本漢字をまず身につけよう

そしてそこから・・・

さまざまなものをつながり合った漢字のネットワークを築いて行こう

象徴文字

漢字は象形文字と呼ばれるが
それになぞらえていえば

漢語の文字は **象徴文字**
呼べるのではないか

象徴	音	シヨウチョウ
	訓	しる かたど 徴しを象る

象徴とは何か

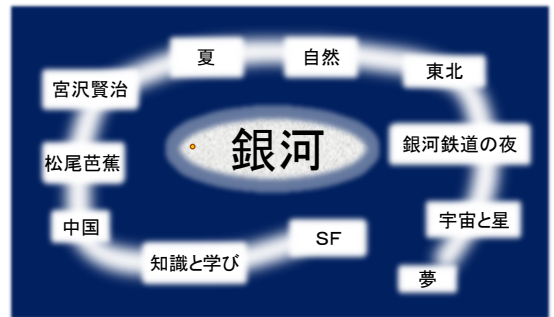
【象徴】 **形のない考えや気持ち**などを、
色や形などにたとえて表すこと。
また、表したもの。シンボル

「チャレンジ子ども国語辞典」より

平和 ↔ ハト 

形のない考えや気持ち = **抽象的なもの**

たとえば **銀河** という字に、自分の場合は
さまざまな考えや気持ちを宿している



自分にとって **銀河** という文字は
/ ginga / という話しことばを
漢字で表すための **記号**ではない

その形と、
そして意味と音が一体となった **象徴**
では、なぜ

漢字の「銀河」が象徴となれるのか
それは「銀河」という文字自体が
ひとつのことばだから

漢語の文字 = ことばとなる理由は

私たちと漢語との出会い方にある
漢語の多くは

抽象的で難しいことば

進化 困難 共有 成立

こういったことばと

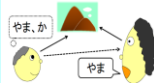
私たちは、**どういった状況**で出会い
どうやって、身につけてきただろう

身近で具体的な漢字の場合は **山 海**

私たちはまず

話しことばの音で、

/umi/や/yama/をおぼえ



つぎに、ひらがなでどう書くかを覚え、

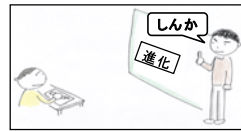
「うみ」「やま」

さいごに、漢字でどう書くかを覚える

このとき漢字は「海」「山」

話しことばの書き表し方 **視覚記号** にすぎない

でも抽象的な概念や難しい事物の漢語は？



学校の授業や、会話の中で、
直接**教わる**こともあるだろうが

多くの場合、私たちは
読書の中で、それらのことばに出会う

そのときは **漢語の文字** を、まず目にする

まず文字に出会うということ



進化

文脈や漢字の法則から、
意味や音(読み方)を推測

私たちは初めから
文字を通して、ことばとして覚える

すなわち 漢語の文字 = **ことば**

でもそれで、なぜ漢語の文字が象徴？

それは・・・

私たちのことばが、象徴であるから

ことばは、意味を表す **記号** と呼ばれる
でも本当は記号 **だけではない**

もし記号だけだったら、
「りんご」ということばを聞いたときに
● みんなが同じ情報を思い浮かべるだけ

赤くて丸い果物で、味はあまずっぱい

ことばの **ミーニング** = 常識の側面

でも、ことばに対する思いは人それぞれ



大好き・かわいい



嫌い・育てるの大変



ことばの **センス**

ことばにはミーニングだけではなく
ひとりひとりの **センス** がある

さまざまな思いやイメージや記憶が
込められていることばは、だから **象徴**

そこに

ことばを獲得した人間の文化がある

だから、それ自体がことばである
漢語の文字も、ひとりひとりの象徴

漢字はこれまで何度も、その難しさや国際化
の点で幾度も廃止の議論がなされてきた
確かに効率性や利便性について
漢字はそういう弱点を持っているが
漢字をなくすということは、日本語の表記方法を
ひとつなくす、ということではない

漢字をなくすということは、これまで漢語を
身につけてきた人間にとって
ことばをなくす・象徴をなくす ということ

もし漢字が廃止されて

「銀」も「河」もなくなり

そして「銀河」という文字がなくなったら

たとえば自分にとっては

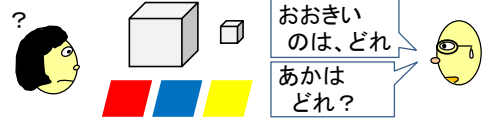
心の中の大切な、ひとつの**ことば**と**象徴**を
失語症のように失ってしまう

漢字のこれからを考える上で
そのことを忘れてはならないと思う

ところで。発達障害を持つ子どもの場合、
難しい漢語ではなく

ごく身近な漢字が、**ことば=象徴としての**
役割を果たせることがある

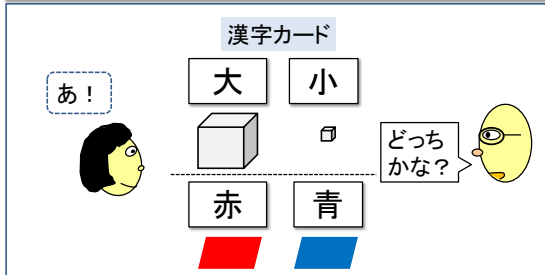
たとえば、**語音認知(ことばの音の認識)**に
強い困難を持つ子どもで
音声の学習では**抽象概念語**が習得できないとき



そのようなときに

漢字を使うと概念語が獲得できることがある

漢字カードと大小事物や色のマッチング課題



このようなタイプのある子どもの場合、

まず、大小や色などの**抽象概念と**
漢字が結びつくようになり **文字の意味理解**

つぎに、漢字の**音読(もしくは呼称)**が
できるようになり

最終的には、**音声(話しことば)**で理解でき
そして、**さいごに音声**で言えるようになった

* 視覚記号に関心の高い子どもに
このような習得経過を見ることがある

このような**概念形成**をはじめ

発達障害の**子どもの学習**において

視覚的標識として漢字の役割は大きい


他の視覚記号より漢字が効果的なのは

歴史の中で洗練された濃密なロゴ だから

そして、本来はそこに

意味と音が重層的に凝集されたもの だから

漢字は、**象徴**となり得る

構造と形と時間を兼ね備えている 

さいごに漢字の学習について

漢字に限らず**どんな学習**であっても

動機と必要性にまざるものはない

漢字がたくさんあっても、

何とかこの本を読みたい!

読まなければならない!

という**対象を見つける**ことが

本当はいちばん大切かも知れない

★【参考・引用図書および文献】

- 「常用漢字表の字体・字形に関する指針」
文化審議会国語分科会 文化庁HPで閲覧可能
- 「漢字の指導に関する学習指導要領の取扱いについて」
文科省 文科省HPで閲覧可能
- 『日本語ワープロの誕生』 丸善フロンティアテクノロジーシリーズ
- DVD【プロジェクトX 運命の最終テスト】 NHKソフトウェア
- 『漢字のはなし』 岩波ジュニア新書
- 『知的生産の文化史』 丸善ライブラリー
- 『日本の漢字』 岩波新書
- 『やさしい日本語』 岩波新書
- 『なぜ人は書くのか』 認知科学選書16 東京大学出版会
- 『書く一言葉・文字・書』 中公新書
- 『神経心理学入門』 医学書院
- 『日本語の歴史』 岩波新書
- 『明治生まれの日本語』 角川ソフィア文庫
- 『ラインズ 線の文化史』 左右社
- 『チャレンジ小学国語辞典』 ベネッセ
- 『銀河鉄道の夜』 新潮文庫等各社